

2026 年度 公立大学法人大阪 第 2 回役員会議事要旨

日 時：2026 年 5 月 20 日（水）9 時 30 分～11 時 00 分

場 所：UR 森之宮ビル 3 階 役員会議室

構成員：福島理事長、櫻木副理事長、松井理事、丸尾理事、高橋理事、徳永理事、重松理事、
中村理事、宮部理事、帯野理事、藤本理事、藤沢理事(オンライン)

監 事：白井監事、前田監事

陪席者：露口本部事務機構長、石井本部事務機構次長、大久保本部事務機構次長、富宅阿倍野キャンパス事務局長、石田総務総括部長、柴山企画総括部長、片山総務部長、遠藤人事戦略部長、吉岡財務部長、皆藤企画部長、肥田大学戦略室長、寺田阿倍野キャンパス事務局事務部長、中井産学官民共創推進室長、酒井経営統括アドバイザー

【審議事項】

1 2028 年度工学部再編（案）について

高橋理事より、2028 年度工学部再編（案）について説明があり、原案のとおり承認された。

なお、現状、資材価格の変動や設計面での調整などによる検討事項が生じており、その影響によっては工学部の中百舌鳥キャンパスへの移転スケジュールに影響を及ぼす可能性がある。具体的な変更が生じる場合には、改めて役員会にて審議を行うこととした。

<主な意見等>

・航空宇宙海洋工学科が新たに設置されるが、航空・海洋は同一のサイエンスとして扱えるのか。また、担当する専門教員の採用方針はどうか。

→航空宇宙海洋の各分野は流体力学を基礎基盤として共通しており、3 年次程度までは共通の専門科目として教授可能である。現状、教員数が少なく組織規模が小さいため、共通土台を持つ分野を統合し、組織強化と柔軟な分野配置を図る。

・名称変更を伴う再編において、旧組織との繋がりを卒業生や同窓会組織へどのように示すのか。

→卒業生が自身の在籍時の学科を把握できるよう、旧学科との接続関係を明示するなどの配慮を行う。

・5 年一貫教育において、修士課程で修了する学生の社会進出時期はどうか。

→制度上の短縮は可能であり、優秀な学生には早期終了制度を活用して期間短縮し、博士課程への進学を促すことを意図した制度設計となっている。

・1・2 年次の学生に向けて、専門科目の提供はあるのか。

→工学国際基盤教育センターに教員を配置し、1・2 年次を中心に、専門教育につながる共通工学基礎科目を学科横断的に提供する。

・本学の柱である「都市シンクタンク機能」「地域貢献」「産学連携」と結び付け、地域の人が見ても価値を感じられるよう発信すべきである。

→工学部再編を大学全体の方針の中に位置付けて発信していくことが必要である。

・学部定員数を削減することで、偏差値はどの程度上がるのか。

→現在も一定の選抜を行っている状況を踏まえると、合格者の偏差値に大きな影響は生じないと考え

- ・中期日程と前期・後期日程の入学定員比率は変わらないのか。
- 変化はない見込みである。また各学科における前期・中期の割り振りも大きく変化はない。

2 高専の不要財産の納付について

山本事務局長より、高専の不要財産の納付について説明があり、原案のとおり承認された。

＜主な意見等＞

特になし。

【報告事項】

1 共創研究グループ創成事業 2026 年度採択プロジェクトについて

重松理事より、共創研究グループ創成事業 2026 年度採択プロジェクトについて報告があった。

＜主な意見等＞

- ・経営的知見を有し、産業界の視点を持つ審査員を採用すべきでないか。
- 現在、審査員を務める未来都市創成部門には企業出身者が一部在籍している。今後は、URA を中心に産業界の視点を持つ人材を増やす工夫を進めていく。
- ・審査時に、当該プロジェクトがどのように展開されるか等の目論見は問われるのか。
- 社会実装を見越し今年度から評価項目である、ソーシャルインパクトを踏まえたロジックモデルの作成を求めている。
- ・大学として「多様性」や「国際性」掲げているにも関わらず、外国人教員の採択数および応募件数が全体として少ないのはなぜなのか。
- 評価のポイントとして「国際性」の重要性は認識しているものの、部局を超えてメンバーを構成することが大きなハードルとなっている可能性があり、現状として十分な数の応募が上がっていない状況にある。
- ・外国人研究者と参画し応募した場合には、インセンティブを与えるなど工夫をするべきである。

【OMU 研究最前線】

今年度からの新たな取組として、専門外の役員にも理解を深めることを目的に教員による研究発表を実施。

- ・テーマ：「創薬における「デリバリー」と核酸医薬の新潮流」
- ・発表者：創薬科学研究科 岸村 顕広 教授

【備考】

オンライン会議システムを併用した役員会は、適時的確な意見表明が互いにできる状態であることを確認しており、終始異状なく議題の審議等を終了した。

以 上